

院長の自由帳

今回は学生の住居について私の古い経験を踏まえて述べてみたいと思います。

振り返れば40数年前、親元を離れ中学1年生で寮生活が始まりました。8畳くらいの4人部屋に先輩が1人・同級生が3人、2段ベッドで机が4台、人が通る隙間位しかありませんでした。食事は食堂があるものの…天ぷらうどんのうどんがご飯に変わった天ぷら丼は今でも忘れられない。風呂は共同大浴場で先輩が入った後の湯は冷めており、底から10cmくらいしか残っていませんでした。

洗濯は敷地内の洗濯機で行い部屋干し、8時と19時と22時半に点呼がありました。今ではきれいな寮に建て替わって全て個室になっています。

高校在学中最後の1年は、一人暮らしをしました。6畳1Kで広島市内で便利が良かったのですが、割と貧乏生活をしていたので利便性はあまり意味のないものとなりました。きっと隣の方には大変ご迷惑だったのではないかと思います。

大学に入り大学の近くの2DKのアパートに住みました。かなり築年数の経っている木造アパートでしたが、風呂とトイレは別で浴槽は体操座りに入れるくらいの大きさでした。目の前が大学だったのと隣に広島からの先輩が住んでおられたのでとても助かりましたが、大学は内灘という海沿いの街で家賃相場は高くなく欲を出して3LDKに住んでみましたが大失敗。冬は部屋が温まらず夜は誰もいない部屋から物音がするような気がして割とすぐに出ました。

そして最後に学年一秀才で部活も一緒に仲の良かった同級生が住んでいた隣の部屋に引越しました。勉強を教わることは残念ながらありませんでしたが、広めの1LDKでとても住みやすかったです。若い方はご存知ない方もいらっしゃると思います。が、阪神・淡路大震災をこの家で経験しました。震度4くらいだった記憶していますが、幸い被害はありませんでした。

広島大学病院に就職して西旭町に1年1DKに住みました。日々帰るのは遅く部屋でゆっくり過ごした記憶がありません。次に県立広島病院に転勤し官舎に住みましたが当時幽霊屋敷と言われるほど老朽化していました。病院に泊まることが多くこの家ではほぼ寝たことが無いくらいで、ただの荷物置き場と化していました。

次に本郷中央病院へ転勤となり駅近くの線路沿いの2DKのアパートを借りてもらって住みましたが、家族ができたこともあり少し手狭だったように思います。電車の音が最初はうるさかったですがすぐに慣れ、子供の泣き声も耳に入らず寝ていたことを記憶しています。

そして川尻に帰ってきました。

一人暮らしで住んだところは多い方かと思いますが、部屋は沢山いらず収納もほどほどで良かった印象です。そのころと比べると今も今は高くなっているのだらうと思いますが、私が住んだ一番高い3LDKでも家賃は54,000円程度だったように思います。

子供たちは関東や関西へ行っているのも都会で暮らすのは大変だと感じております。

いずれにしても皆さんの周りにも一人暮らしをされている家族がいると思います。安全に過ごしてもらえればと思います。